

自分の体を守る 正しい知識を!

佐藤益美さんと大学生の話

Masumi Satou



雑誌、ビデオ、インターネットなど情報があふれるなかで、10代の人工妊娠中絶件数や性感染症が増えています。性についての正しい情報と知識を思春期の若者へ広めることは急務となっています。今回、中学養護教諭の佐藤益美先生と大分大学教育福祉科学部の女子学生7名による「性」について話す会」をレポートしました。

生命・からだ・生きる

佐藤 「性」って何だろう?という事を授業で話しています。子どもたちには「性」とは「性=こころ」を生かすことだと伝えます。そしてそれは生命(いのち)、からだ、生きる事を学習することだと話しています。みんなが今ここにいるのはお父さんお母さんがいるからだし、何万年も前の人類誕生から生命(いのち)が途切れなかったから。でもこれから先どう生きるかは自分で決めていいんだよ。

また性同一性障害、同性愛等いるんなことを知ってもらい互いを認め合える社会を、理解していけるように話をしています。授業の最後にはプライベートゾーン(水着で隠れる部分)はもちろんです、自分の体に勝手に触れたり見たりする人がいたら、それが誰であつても注意したりいやだと言えるように教えています。

知ることで行動が変わる

佐藤 子どもたちはいつぱい本当のことを知りたいのだけれど、いきなり出産のビデオを見せられて、絶対子どもは生まないと言う中学生もいたし、性病感染の症状や中絶の状況のビデオを見せるのは、威しになっているのではないかと考える事もあり、教材選びは慎重にしなければなりません。無防備な行動をしている子どもでも、正しい知識を教えるのと何で早く教えてくれなかったん。知った後は慎重に行動するようになった」と言います。知らない事でゆがんだ情報に煽られ暴走している子どももいます。

子どもたちには、困ったら、解決の道がわかる大人に相談してください。」と言っています。

親の思いを伝えること

学生 家では祖母が結婚するまではいけないよ」とよく言っているし、小学生の頃TVで性についての場面になるとチャンネルを替えられていたので、触れてはいけない事だと感じていました。だから異性と仲良くなっても、性体験をする事は、親に対して罪悪感を感じます。

性体験する事が悪いことなのかどうかわからないし、自分が親になつた時、子どもにどう伝えたいのかと思います。**佐藤** 子どもが聞いて来た時、ごまかしたり、変な顔をしたりす

ると、これは聞いたらまずいんだと思うのできちんと受け止める対応する事も大切だと思います。性行為があつたから私達が今いるのだからそれを否定してしまつと、話ができない。ただ、いけないとは言わなければど誰ともすることではない。中学生には妊娠や性感染症など背負うものが大きいという話をしています。

また子どもが聞いてこなくても、親の思いを伝える事は大切だと思えます。人との関係、自分や相手を大切にすることはどういふ事か、対等とはどういう事かとか。

HIV感染者急増

佐藤 HIV感染についての検査体制・医療体制が整っていて治療もできる国の中で、唯一感染者が増えている国が日本です。HIV感染は自分には関係ないことと思わずもつと知ってほしい。正しい知識を持たず、自分だけは感染しないという思いだけでは自分の身も相手の身も守れないのです。

HIVとはエイズ発症の原因となるウイルス(ヒト免疫不全ウイルス)のことです。

